



I 本校が目指す姿

① 学校の現状や課題

本校は「男鹿に学んで世界に羽ばたく生徒の育成」を教育目標に掲げた県内唯一の水産科を有した総合制高校です。この教育目標には、男鹿という地で学んだ知識や技術を基に、男鹿の海とつながっている海岸線をもつ世界約160カ国で活躍できる社会人に成長してほしいという願いが込められています。

日本は島国であり古来より物資や文化は海を渡って全国に伝わりました。それは現代でもさほど変わりありません。日本は世界第6位という排他的経済水域（EEZ）を有した海洋国家です。しかし海洋国家であるにもかかわらず海から受けている恩恵を忘れ、その存在のありがたみを軽視しているのが今の日本人なのです。

本校の使命はかけがえのない海を守り、命を尊び、海洋資源の持続的な活用ができる豊かな人間性を備えた人材を育てていくことです。海は学びのフィールドであり、「海を愛し、海に学び、海と共に生きる」のが本校の生徒たちです。

本校の最大の課題は入学者定員に対する充足率であり、ここ数年で入学者数は激減しました。在校生の約7割を占めている男鹿潟上南秋地区の中学校卒業生数は、令和5年3月卒が512人ですが、令和10年3月卒は454人となり、約12%の減となることが予想されています。そのため第七次秋田県高等学校総合整備計画（後期）に基づいて、男鹿工業高校との統合について検討中です。

その一方で、本県沖で始まった洋上風力発電事業は本校での学びで得た知識や技術が必要不可欠です。そのため地域からの雇用が創出されると期待しております。それを見据えて今年度から男鹿市と連携し「地域みらい留学」事業を展開しています。現在も県外中学校出身者が本校で学んでおりますが、“海の恵みをあなたの「みらい」に！”をキャッチコピーに、海洋科と食品科学科に全国から生徒を募集しています。特色ある教育活動を通じて「学んだことを実践できる」、男鹿海洋プライドで社会に貢献してほしいと思っております。

② スクール・ポリシー

i) グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）「このような生徒を育てます」

共通

地域に根ざした特色ある教育活動を通して、地域に貢献できる生徒を育てます。

普通科

豊かな人間性を備え、地域の発展に寄与する創造的な生徒を育てます。

水産科

豊かな人間性を備え、地域産業に貢献する実践的な生徒を育てます。

ii) カリキュラム・ポリシー（本校の学び）「このような教育活動を行います」

共通

近隣の教育・研究機関や産業界と連携し、探究的・体験的な学習活動を通して、思考力・表現力・創造力など、課題解決のための実践的な学習を行います。

普通科

自己のキャリア形成を意識した幅広い教養を身に付ける学習を行います。

水産科

水産に関する専門的かつ高度な知識・技術を身に付ける学習を行います。

iii) アドミッション・ポリシー（求める生徒像）「このような生徒を求めています」

共通

社会貢献意欲にあふれ、地域の課題に関心を持ち、粘り強く探究活動に取り組む意欲のある生徒を求めています。

普通科

基礎的な学力を身に付け、進路実現を目指して各教科の学習や資格取得に取り組む意欲のある生徒を求めています。

水産科

水産に関する専門的な知識と高度な技術を身に付け、実習や課題研究に取り組む意欲のある生徒を求めています。

II 5年間を通しての具体的な目標と取組

①5年間を通しての具体的な目標と取組

- i) 水産科の専門性を生かした国公立4年制大学進学率 (進学者の5%)
- ii) 普通科・水産科の専門性を生かした私立4年制大学進学率 (進学者の10%)
- iii) 水産科の専門性を生かした国公立短期大学校進学率 (進学者の15%)
- iv) 県内就職率 (就職者の95%)
- v) 資格取得の推進

普通科

ビジネス計算実務検定2級（合格率20%）、3級（合格率80%）

簿記実務検定2級（合格率20%）、3級（合格率80%）

ビジネス文書実務検定2級（合格率20%）、3級（合格率80%）

海洋科

4級海技士（航海）・4級海技士（機関）の筆記試験（合格率30%）

1級小型船舶操縦士（合格率95%）、潜水士（合格率90%）、二級ボイラ技士（合格率100%）

食品科学科

食品技能検定第1類、第2類、第3類（合格率100%）

HACCP基本技能検定（合格率100%）

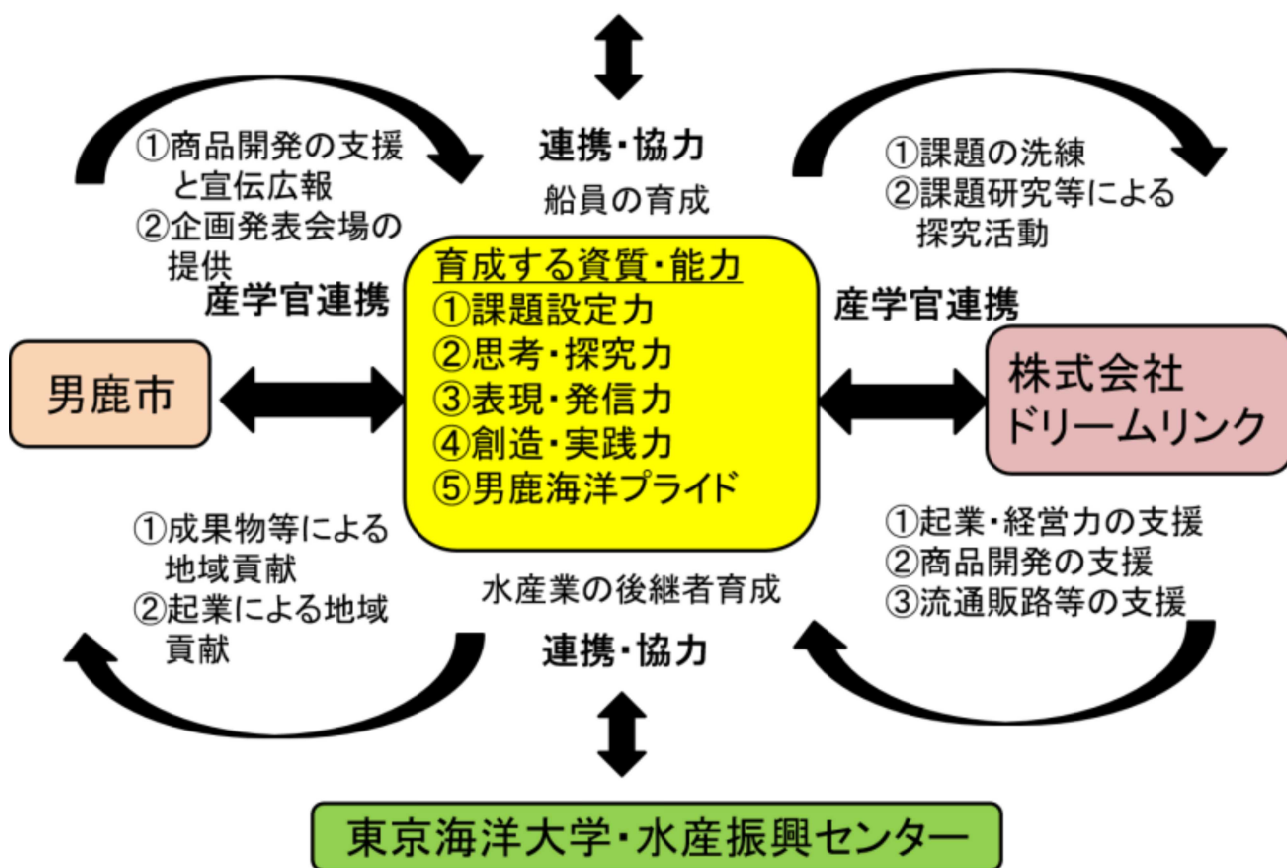
vi) 部活動加入率（85%）

②目標を達成するための具体的な方法、取組等について

- i) 生涯にわたって学び続ける力を育成するために、ICT環境等の活用により個別最適な学びになるよう授業改善に取り組んでいく。
- ii) 各種資格取得を奨励し、補習や対策講座を充実させることで進路実現のためのサポートを図る。
- iii) 知的財産権に関する学習を推進し、地域産業に貢献できる人材育成のため男鹿地域産学官連携プロジェクトをより一層推進する。

- iv) 大手海運会社や高等教育機関等と連携・協力し、実践的なカリキュラム開発を目指しグリーンビジネス産業である秋田沖洋上風力発電事業で活躍できる人材を育成する。
- v) 長期インターンシップを取り入れ、勤労観や職業観を育成させるとともに、地元企業への理解を深める。
- vi) 学校と地域・企業が連携・支援して、生徒会や部活動、各種コンテストなど、生徒が主体的に活躍できる活動を活性化する。
- vii) 地域の行事やボランティア活動に、誇りや郷土愛をもって参加し、充実感や達成感を感じられるよう工夫する。

日本郵船株式会社・日本海洋事業株式会社・東京海洋大学



男鹿地域産学官連携プロジェクト及びグリーンビジネス産業界、高等教育機関、研究機関との連携・協カイメージ図

Ⅲ 今後の姿

統合を見据えて男鹿工業高校と連携を深めていく。

令和3年6月作成

令和5年6月一部改訂